日本保健医療行動科学会年報 Vol.16 2001. 6

芸術と医療：癒しのアート“フィーリングアーツ”

北村義博*

Art and medical care：“Feeling Arts” as healing art

Kitamura Yoshihiro, Contemporary Artist, “Feeling Arts” Volunteer committee

キーワード
芸術 art
共同 collaboration
感動 emotion
癒し healing
生命 life

I フィーリングアーツとは

フィーリングアーツは，私が独自の技法で創作した体感芸術です．土と墨汁と金粉で作った抽象絵画（縦1.45m，横2.45m）に，青・赤・黄の三原色のライトをあて，ライトの配分・割合を変えていくことで，作品は微妙な陰影の変化とともに様々な表情を見せるのですが，そこに，クラシック，童謡，雅楽の笙の音色，シンセサイザー，クジラの声など，こころの安らぐ音を流して，体感する芸術です．

*現代美術作家，フィーリングアーツ・ボランティア委員会代表，神戸山手女子短期大学非常勤講師

そもそも，土と墨汁と金粉の組み合わせで表現することは，芸術大学の学生だった頃からの私のテーマでした．作品のテーマは，「地球」から始まって，「宇宙」，「生命」，そして「天上の世界」へと広がっていきますが，最初，地球を描きたいと思ったとき，それなら本当の土を使おうと思ったのです．土と墨汁の匂い，感触，色合いが好きなのです．まず，イメージに合った土を探し求め，その土を溶いてキャンバスに塗りつけ，その上に墨汁をかけ，そしてそれを何度か繰り返します．私の作品には影もありますが，必ずそのなかに光（希望）を描くようにしています．影があるから光があり，そして空間がでてきます．テーマに沿って，出来具合いをみながら作品を仕上げていくのですが，1つの作品を完成するまでには2～3か月はかかります．

私は大学卒業後アメリカに渡りましたが，その折，加藤南技氏（版画刷師）の“ライト・デッサン”というものに出会い，私の作品にもライトをあててみたところ，他の絵画にはみられないような大変化が起きたのです．墨汁と土と金粉はそれぞれに光を反射する度合いが違うので，絵がワッと立体的になるのです．そのとき「これだ！」と思い，本当に興奮しました．三原色のライトの調光の割合を変えたり，照明のポイントを変えたり，ライトに強弱をつけたりすることによって，作品に動画的な微妙な陰影や奥行き感が生まれ，様々な表情を見せるのです．まるで，あのグランドキャニオンの雄大な景色のように……．時の流れがそのまま風景になっていて，それが太陽の位置が変わるにつれ，時々刻々，ピンクやブルーに色を変えていくのです．

私の作品には必ず作品ごとのテーマがありますが，その作品にライトがあたり，そして，クラシック，童謡，雅楽の笙の音色，シンセサイザー，クジラの声など，こころ安らぐ音が伴って，体感者は，作品のテーマを超えて，自由に自分なりのイメージを膨らますことができるのだと思います．フィーリングアーツは，いわば私と体感者が共同して作りあげるアートで，同じ作品でも，体感者によって様々な見方・感じ方ができるのです．体感した人それぞれがこころの筆でこころに描くアートです．人から上手・下手を評価されることもない自由なアートです．

II　フィーリングアーツと癒し

私の子どもが大病を患ったことがあるのですが，そのとき，自分自身の生活でも「生命」に直面しました．まわりのすべてがスーッと消えてしまい，「生命」だけが光を放っているような感じがしました．それをきっかけに，自分自身の生活と作品にギャップがなくなりました．私の子どもが入院している病院に通っていたとき，患者さんやその家族の人たちと接していくなかで，ここにこそ，フィーリングアーツが必要だと思うようになりました．

私は感動こそ人の生命力を高めるものだと思っています．「痛みや苦しみ」をもっている患者さんやその家族の人たちが，フィーリングアーツを体感することによって，感動とともに，ありのままの自分を知り，自分を受け入れることでこころが安らぎ，そして生命力が高まり自然治癒力へとつながっていくのだと思います．

癒しの原点は，あるがままの自分を受け入れて不協和なものを調和させることだと思います．これは，私がアートで表現していきたいと思うものと重なっています．影があるから光があり空間がでてきます．美しい部分だけではなくて，影があり光があって調和があるのです．フィーリングアーツに限らず，芸術は人を癒す力をもっていると思いますが，特にフィーリングアーツは作り手

の強いメッセージやストーリーがなく，体感者のイマジネーションにゆだねる部分が大きいアートなので，多くの体感者が自分のこころを作品に投影しやすいという面があると思います．

私は，これまで積極的に保健・医療・福祉関連の施設や阪神淡路大震災後の仮設住宅等で数々の公演を行ってきましたが，ひとつ言えることは，患者さん，障害のある人，その家族の人たち，あるいは被災者の人たちなど，「痛みや苦しみ」をもっている人ほど，フィーリングアーツに圧倒的に敏感に反応するということです．これは，「痛みや苦しみ」をもっている人ほど感性が研ぎ澄まされていて，自分と向き合える状況にあるということではないかと思います．

III 「痛みや苦しみ」をもつ人の反応から

私はこれまで約20年間，各地でフィーリングアーツの公演を行ってきましたが，毎回，体感者の反応には私自身が驚いています．特に，患者さんや障害のある人，その家族の人たち，あるいは被災者の人たちなど，「痛みや苦しみ」をもつ方々の反応には，私の想像を絶するものがあり，その反応に，私自身が感動し，こころが安らぎ，そして希望が湧いてくることがしばしばです．紙数の関係もあり，ごく一部ですが，そのうちのいくつかを紹介させていただきたいと思います．

●私が医療機関での公演活動を始めて間もないころの話ですが，末期がんの患者さんたちのおられる病棟でフィーリングアーツを上演したとき，上演中ぐっすり寝ている男性の患者さんがおられました．正直なところ，私は少し不愉快な思いをしていましたが，終了後，この患者さんの奥様が，感激のあまり涙を流され，これまでの経緯を話されました．

この末期がんの患者さんは告知を受けておられましたが，常に死の恐怖にとりつかれ，音楽を聴くなどして死への恐怖を紛らわせていたそうです．それでも決して熟睡することはできず，この上演会のときは心身ともに疲労の限界だ

ったそうです．この患者さんがフィーリングアーツをどのように感じられたかは，私には知る由もありませんが，死への恐怖から，決して熟睡することができなかったこの患者さんの，上演中の寝顔，そして奥様の感謝の言葉は，いつまでも私のこころに焼き付いています．このとき以来，気持ちよく寝ていただくこともその方のフィーリングアーツだと強く実感するようになりました．

●長期間入院している高齢の男性患者さんと，その奥様が一緒にフィーリングアーツの上演会に来られたのですが，上演後，その患者さんは，ただ一言「きれい……」と言って，泣いておられました．その様子を見て，奥様も感激のあまり号泣されていました．そのとき，私まで，なぜか泣けてきたのを覚えています．その折，奥様から次のような感想をいただきました．

「主人は，現在激しい便秘に苦しむ日が多く，苦しむときは，『皆さんの通られたであろう道を２人して，手を取り合って通りましょう．私も共に心で苦しんで付いて行きます』と語り合って，実相の道を通りつつの日々でございます．フィーリングアーツを拝見いたしまして，宇宙創空の世界，限りなき美しき霊雲のなか，霊波に乗って西国に行けるように感じられました．思いもかけぬ安堵の日々を送らせていただけることと存じます．誠に有り難うございました．」

このご夫婦が感じられたことは私にはわからない世界のことですが，痛みや苦しみを通して，ご夫婦がこころを通わせ，そしてフィーリングアーツを体感され，何か大切なものを一緒にこころに描かれたのだと思います．

●身体障害者のリハビリ専門の施設で上演したときのことですが，徐々に筋肉の機能が衰えていく病を背負いながらリハビリに通院されている成人女性の方が書かれた感想の用紙を拝見して，私はたまらない想いがこみあげてきました．

すべてひらがなで記され，なんとか読みとれるその文字はひどくふるえていましたが，用紙全面に，とてもきっちりと几帳面に書かれていました．その内容の最後には「わたしもえをかこうとおもいました．だれがひょうかしようとかんけいなく，じぶんがよいとおもえばそれでいいんだなあとおもいました」

というものでした．

また，感想を書いていただく用紙の欄外に，今後のフィーリングアーツ活動へのボランティア参加希望の有無をお聞きする項目が設けてありましたが，ふるえる線で「希望します」が囲ってあったのです．成人してから，自分の思うように身体が動かなくなったこの患者さんは，毎日リハビリに通われるなか，フィーリングアーツをどんな想いで，そのこころに描かれたのでしょうか．私はこの感想の用紙を目にしたとき，その方の想いの深さを感じました．

●筋ジストロフィーで，手足，体だけでなく，顔の表情さえもつくることができない子どもが，フィーリングアーツを体感して涙を流していました．重度の障害をもつその子が涙を流したので周囲の方々も大変驚かれました．「感動するということは今生きている証です」と，養護学校の先生方は，現在の医療では治すことができない病を抱えている子どもに，生きる希望を与えることができたと言われました．そして，それは先生方にとっても大きな希望だったのです．

Ⅳ　保健・医療・福祉関連施設での感想の集計結果

私は，フィーリングアーツを公演するとき，体感者の方々に，どんなことでも感じたことを自由に紙に書いていただくようにお願いしています．そのうち，保健・医療・福祉関連の施設で行ってきた公演の際に，患者さんや障害のある方，その家族の方々，そして施設の職員の方々に書いていただいた感想を，その記述内容から判断して，「感動」，「安らぎ」，「希望」という観点から分類し，集計してみました．なお，保健・医療・福祉関連の施設で行った公演の際には，ほとんどすべての方から感想を書いた紙を提出していただいています．

表１に集計結果を示しました．対象数は399人で，主に「安らぎ」を感じたと記述していた人が210人（52.6%）で最も多く，次いで，「安らぎ」と「感動」を共に記述していた人が84人（21.1%），主に「感動」を記述していた人が54人（13.5%），主に「希望」を記述していた人が12人（3.0%），「安らぎ」と「感動」と「希望」を共に記述していた人が５人（1.3%）という結果でした．また，何も感じなかった人を含めて，否定的な感想やその他の感想を記述していた人は34人（8.5%）でした．

この結果から，91.5%の人が「感動」，「安らぎ」または「希望」の少なくともいずれかの内容を感想として記述していたことになり，なかでも特に「安ら

表1　フィーリングアーツ・感想の集計結果

感想の内容	人数	割合
「安らぎ」を主に記述	210	52.6%
「安らぎ」「感動」を共に記述	84	21.1%
「感動」を主に記述	54	13.5%
「希望」を主に記述	12	3.0%
「安らぎ」「感動」「希望」を共に記述	5	1.3%
その他	34	8.5%
計	399	100.0%

（対象：保健・医療・福祉関連施設）

ぎ」を記述していた人は74.9%で，まさに癒しの効果があったと考えられます．このことは，今回の対象者が保健・医療・福祉関連施設の方々であり，直接あるいは間接に「痛みや苦しみ」を感じている方々であったことが大きく影響していると考えられます．

V　体感者のコメントから

これまでフィーリングアーツを体感していただいた方々から，数多くのコメントをいただきました．先ほども述べましたように，フィーリングアーツは，私と体感者が共同して作りあげるアートです．そういう意味で，体感者の方々のコメントは，いわば作者のコメントでもあると思います．紙数の関係もあり，ここですべてを紹介することができず，残念ですが，そのうちの一部を紹介させていただきたいと思います．

●私が北村氏のフィーリングアーツを体感した際，このステートメントがいかに深い真実であるかを実感した．キャンバス，光，音の総体は日常のストレス，苦しさ，不安を超えて完全にリラックスできる貴重な機会を私に与えてくれた．誘導されて見る映像と異なり，フィーリングアーツは光と音楽によって作られるイメージを自分なりに解読せよと観客を誘う．慢性疾患や不治の病を抱えた

患者たち，あるいは病床から逃れることができない患者にとって，フィーリングアーツは感情の浄化役を果たしてくれるにちがいない．（アマンダ・スピールマン，元米国スタンフォード大学病院アートディレクター）

●フィーリングアーツの鑑賞，それは精神の深い部分のその人それぞれに流れる小さな宇宙ともいえる何かに対して，静かに，あるいは激しく訴えかけてやまない．

初めて私がこのきわめて波動の高い芸術作品を目にしたとき，「芸術は何処まで神の領域に近づくのか」という感嘆に身体がふるえる気がした．その印象たるや，非常に高いレベルにおける瞑想状態を経験したときのような深いカタルシス，そして，なにか言葉で言い表せぬような神聖なものに触れた感動に血液が沸き立つようであった．大自然の移ろいゆくからこそ美しい朝焼けや夕焼けの壮大な光景を前にして，目に映るものすべてを愛おしく思い，自分自身や，この世にあるものすべてを抱きしめたくなるような感覚をよく，われわれは経験する．フィーリングアーツには，このような感覚，というよりも，限りなく神々しい魂や概念が付加されたような清々しい感動があり，自分のなかのいろんなベールが取り外されむき出しになった素の感情や情動をわしづかみにされて揺り動かされるようなそんな強い感銘を受けた．（小野綾子，神戸市看護大学）

●北村義博さんのフィーリングアーツを説明するのは言葉では表現できない．なぜなら，魂のゆらめきというか，宇宙空間をさまようというか，とにかく金色と墨と泥で描かれた抽象画の上で，光と暗黒の視覚の世界が，音楽，または自然の音という聴覚からの情報によって呼び起こされる人間としての感覚に訴えてくるものとしか言いようがない．だから，感じる人は何かを感じ取り，見えたものしか見えない人には見えたものだけの世界でしかないのであろう．「見えても見えなくても，自分の気持ちのままにご覧ください」と北村さんが公演を始める前に言うのは，観客にとっては救いである．わからなくてもいいのだと観客は自分を納得させて見ていることができる．公演中ずっと目をつむって

いた若い女性が，頭の中が無の境地になり，大自然に触れているように感じていたと感想文を書いた.「おじさんたちがいっぱい涙を流していた．きっととっても癒されたのでしょうね」と伝えてくれた人は，他の人への思いやりと優しさを自分自身のなかに培っていた．フィーリングアーツとは自分自身への問いかけの時間と空間であり，感じるアーツである．公演終了後にこころに溢れているものは，爽やかさと安らぎであった．今，私たちが活動援助を行っているバングラデシュの地方都市で，経済的に恵まれない人たちや，透析装置がないために治療を受けられない現地の腎臓病患者さんたちと一緒に，北村さんのフィーリングアーツを見てみたいと思いました.（木村春江，東京大学医科学研究所）

●毎日，何かに追われるように暮らしていると，いつの間にかボンヤリと自然に包まれて過ごす時間をもたなくなってしまう．そしてさらに効率的に，効果的に過ごすようになってしまう．ゆっくりと立ち止まって息を吸いそして息を吐く．自分で何かをしようと考えずに，何ものかやすらぎを与えてくれるものに身をまかす．そういう大切なときを手にする貴重な機会との出会いがフィーリングアーツにはある．無心に色と模様の移ってゆくように心を遊ばせる．意味を見つける必要もないし，何かを発見することも不要だ．ただ光と陰を感じ音に心を遊ばせる……それだけでいい．何者かに生かされている人たちとの触れ合いがそこに生まれてくるのだ.（倉光弘巳，芦屋大学）

●飽くことなく刺激を求める私たち現代人に失われたものは何なのだろう？
たしかに私たちは退屈しない，しかし満足もしていない．そんな時，北村さんのフィーリングアーツは，私たちの心と精神とを目覚めさせる．そこでは，静かさと自分に誠実になる気分が回復する．たしかに時代に翻弄されて私たちの生も死も虫けらのようだ．しかし，そのために生まれてきたのではあるまい．フィーリングアーツはいつのまにか私たちの思索と詩作を促す．自分の生命には自分だけのリズムがあり，余人には代え難い品性があることを自覚させてく

れる．私の存在理由を直感したように希望が生まれ，芸術の存在理由も理解する．それは，あまりにも希有な時だ．（濱下昌宏，神戸女学院大学文学部，美学専攻）

●私は，北村さんがフィーリングアーツの公演をされるとき，鑑賞者としてではなく，傍らで客観的に拝見させていただく機会がありました．そのとき，この芸術がなぜこころの癒しにつながるのか，ある確信をもちました．この芸術を単に鑑賞してもすべて癒しにつながるとはかぎらないと思います．芸術としてのフィーリングアーツ自体から発せられる問いかけが，感動・やすらぎ・希望などの様々なフィーリングを伴って，その人なりのイメージを自由にこころに誘発させていると思いますが，それだけではなく，北村さんの，何ものも否定しない，言葉による最小限の問いかけが，その人なりのこころの解釈を促し，自らのこころを自ら表現することを促しているのだと思います．そもそも芸術には国境はありませんが，この癒しの手法は，宗教・民族・文化を超えて拡がっていくであろうことを確信しています．（吉岡隆之，神戸市看護大学健康・行動科学系）

Ⅵ　おわりに

私は，これまでの公演活動のなかで，「痛みや苦しみ」のなかにこそ，人間の本当のもの（真実），本当の感性があるのではないかということを実感しています．今後も，フィーリングアーツを通して，世界中の「痛みや苦しみ」をもつ様々な人たちと出会って，そこで一緒に，「感動」，「こころの安らぎ」，そして「光（希望）」を描いていきたいと思っています．

フィーリングアーツの主な軌跡と今後の主な予定

1981年：フィーリングアーツ創作
1985年：筑波科学万博「パピルスプラザ」に出展
1988年：旧西ドイツ（ベルリン）の「日独センター」にて公演
1989年～：日本各地の保健・医療・福祉施設などでの公演活動を開始
1993年～：保健・医療・福祉関連の学術会議などでの公演を開始
1994年～：フィーリングアーツ生命学（人間学，自然学）の講演会（生命科学振興会後援）を開始
1995年～：阪神淡路大震災被災地での公演活動を開始
1995年：フィーリングアーツ・ボランティア委員会が発足
1996年～：日本各地の大学祭等での公演活動を開始
1998年：バングラデシュ（チッタゴン）の「アイ・ホスピタル」にて公演
1998年～：松下電器産業㈱の文化支援活動の一環として支援を得る
2001年３月：関西フィルハーモニー管弦楽団とのコラボレーション公演
2001年６月：日本ホスピス在宅ケア研究会第９回全国大会ＩＮ大阪にて公演（予定）
2001年７月：第17回国際老年学会（カナダのバンクーバー）にて研究発表（予定）
2001年７月：大阪府臨床心理士会・医療関係部会研修会にて公演（予定）
2001年８月：第４回国際保健医療行動科学会議（神戸）にて公演（予定）
2001年８月：第13回世界移植者スポーツ大会（神戸）にてフォーラム開催（予定）
2001年10月：感性福祉学会（東北福祉大学）にて研究発表（予定）